岩盤ボーリング柱状図

調査名　二級河川 御手洗川水系 御手洗川支川18通常砂防事業に伴う測量設計業務

事業・工事名

調査目的及び調査対象　砂防　砂防

ボーリング名	R1-Bor.No.1	調査位置	堰堤中央部右岸側	北緯	34° 21′ 40.2939″
発注機関	広島県西部建設事務所廿日市支所	調査期間	令和元年 9月19日～ 令和元年 9月24日	東経	132° 16′ 21.3115″
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者 / ボーリング責任者
孔口標高	TP 312.22m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総削孔長	12.00m	地盤勾配	0° 水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機：東邦D1-B58型
				エンジン	(株)ヤンマー製NFD-12型
				ポンプ	BG-3C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名(模様)	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	記事
1			S-BG	玉石・礫混じり砂	茶褐								上部草根混入。細砂～中砂を主体とする。φ2～50mm程度の礫を10～20%程度含む。全体にφ10cm以上の玉石を含む。
2					褐灰								
3					褐灰～褐								
4					褐灰								
5	307.22	5.00											
6				礫混じり砂	褐～灰褐								礫・玉石は亜円～亜角状を呈する。マトリックスは細砂～中砂を主体とし、部分的に細粒分を少量混入する。GL-0.00～0.80m、粘土分を全体的に15%程度混入する。GL-0.60m付近より礫の混入量が増加する。GL-0.80～1.65m、コア長85cm程度の硬質な花崗岩質玉石。GL-1.65～2.35m、粗砂～中砂優勢でφ2～50mm程度の礫を20～30%程度混入する。GL-2.35～3.45m間、φ30～75mm程度の礫主体で、70～80%程度の混入量を示す。GL-3.45～5.00m、コア長155cmの硬質な花崗岩質玉石。
7													細砂～中砂を主体とする。φ2～30mm程度の礫を20～30%程度混入する。max φ50mm。GL-5.70m、GL-6.70m付近で礫の混入量が増加し、砂礫状を呈する。
8	303.82	8.40											
9				花崗岩	褐灰	w3	h2	B	Ⅲ	c	CL / DH	7 [0] (100)	CM級主体。岩片状～短柱状コアを呈する。一部で亀裂多く、礫状コアを呈する。亀裂面は酸化により茶褐化しており、一部、若干の粘土を挟む。
10						w2	h1	A			CM	0 [0] (100)	
11												0 [0] (100)	
12	300.22	12.00				w3	h3	A	Ⅳ	b		0 [0] (100)	
13													
14													
15													
16													
17													

孔内水位／測定月日	ルジオン値	ルジオン試験 P－Q図	原位置試験	室内試験	削孔状況 削孔月日	削孔速度 (cm/h)	孔径・孔壁保護	コアチューブ・ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	削孔水・送水量 (L/min)	排水量 (L/min)
9/20 1.95					9/19								
					9/20								
					9/24								

ルジオン試験 P－Q図
P：有効注入圧力 MPa
Q：注入量 l/min/m
( )：換算ルジオン値
(( ))：限界圧力